

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	佐賀市立松梅中学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携においては、コロナ禍の中、CSや地域人材のできるだけの協力を仰ぎ、将来ふるさと松梅を担うであろう児童生徒の育成ができた。 ・地域・保護者とともにおこなう学校行事では、効率化のために内容を精選、また、ICT機器の有効利用により、職員の働き方改革につながった。 ・小中一貫教育をさらに深め、学力向上に重点をおき、進路の保障を目標に、基礎学力を定着させるための取り組みや指導法の工夫を校内研究を中心に取り組んでいく。
------------------	--

2 学校教育目標	ふるさと松梅を担う心身ともに調和のとれた子どもの育成
----------	-----------------------------------

3 本年度の重点目標	<p>① 小中一貫教育の中で、個に応じた子ども理解の上に立ち、多面的・多角的視点で学習支援を工夫し、基礎・基本の学力の定着・学習習慣の確立を図る。</p> <p>② 地域との連携を充実し、総合的な学習の時間を中心に「松梅学」に取り組む。</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	○学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上 ○1・2年生の佐賀県学習状況調査で、学力対策評価シートに示した到達目標を達成する。また、3年生のSAGAテストで、2回目の学年平均が1回目の学年平均を上回る。	・校内研修の中で、マイプランを共有するとともに、取り組みの促進を図る。	B	○アンケートで「学力向上対策評価シートでのマイプランの成果を意識して学習指導に取り組んでいる」に対して肯定的な回答をした教師が89%だった。また、校内研修での共有を図ることができた。 ○佐賀県学習状況調査及びSAGAテストがまだ実施されていない。			学力向上対策コーディネーター(主・副) 研究主任
	○基礎・基本の定着のため、個人カルテを利用した分かりやすい授業の実践 ○小中職員による多面的・多角的生徒理解による学習指導法の工夫	○学期末の生徒アンケートで、「その時間の学習について振り返ることができたか」「最後まであきらめずに考えることができたか」という質問に対して、肯定的な回答をする生徒の割合が80%以上。 ○学期末の生徒アンケートで、「朝のスキルタイムは、自分の学習に役に立ったと思うか(自分の学習の定着につながったか)」という質問に対して、肯定的な回答をする生徒の割合が80%以上。	・生徒自身が授業に対する取り組み方や授業内容を振り返ることができ、主体的な学びを促すことができる「振り返りシート」を作成し、活用する。 ・学習カルテや学習相談を生かし、朝のスキルタイムを充実させる。	A	○1学期末のアンケートで、「その時間の学習について振り返ることができたか」「最後まであきらめずに考えることができたか」という質問に対して、肯定的な回答をする生徒が全教科80%以上だった。→数値目標を90%以上に変更する。 ○1学期末の生徒アンケートで、「朝のスキルタイムは、自分の学習の定着につながったか」という質問に対して、肯定的な回答をする生徒が90%以上だった。→数値目標を95%に変更した上で、学習カルテや学習相談の活用を充実させる。			学力向上対策コーディネーター(主・副) 研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳の授業や様々な体験活動での振り返りやアンケートで、「自己を見つめる」、「物事を多面的、多角的に考える」ことができたという回答をする生徒が80%以上。	・人権に関する道徳や学活の授業を学期に1回以上取り入れる。 ・道徳の授業づくりについての研修、教材の共有化 ・TTやローテーションによる道徳の授業の推進 ・ろう学校との交流体験の実施	B	○担任、副担任で授業を行うことができる。次年度への教材を共有について工夫が必要である。 ○生徒は様々な題材(自分自身、他の人、集団や社会、生命や自然、崇高なものとの関わりについて)について自分で考えたり、他の人と意見を交わしたりしながら、自分自身と向き合う時間			道徳推進教師 人権・同和教育
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員90%以上。	・毎月、いじめ・いのちを考える日に全職員がローテーションで、いじめ・いのちに関する人権講話を必ず行う。 ・いじめの対応についての研修・会議を年間に3回以上行う。	A	○毎月、いじめ命を考える日に登板の教員が人権講話を行っている。 ○いじめアンケートから覚知した事案について、いじめ防止対策委員会を開き、速やかに対応できた。			生徒指導主事 教育相談
	◎児童生徒が地域や異年齢層との交流活動を通し、夢や希望を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	○地域の方々との交流活動に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした生徒75%以上 ○Q-Uアンケート「将来の夢・目標」に関する肯定的回答が全国平均を上回る。	・アンケートの実施 ・夢ノートの意識化した毎学期の目標立て ・感染予防対策を徹底し、保護者や地域の方と連携した活動の実施 ・各種体験活動では、児童生徒に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。	B	○コロナウイルスの影響により、地域との交流活動ができなかったのが非常に残念だった。 ○生徒個人が4月に立てた目標に対して振り返り、意識して学校生活を過ごすことができた。また、そのことにより、2学期への課題を自分自身で意識することができた。 ○大きな行事後には、振り返り活動をする中で、しっかりと達成感を得たり、次への原動力にすることができた。 ○Q-Uアンケートでは、ほとんどの生徒が全国平均を上回ったが、数名、低い生徒がいたので継続して指導していきたい。			総合的な学習担当 教務主任 各教科担任
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」 ●「望ましい生活習慣の形成」	○授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の生徒80%以上 ○体力テスト8項目中、5項目以上で全国平均を上回る ○「健康に食事は大切である」と考える児童生徒85%以上	・機会あるごとに運動やスポーツの意義や大切さを指導する。運動部活動への参加を奨励し、加入率80%以上を目指す。 ・体育の授業の準備運動にランニングや補強運動を取り入れ、体力の向上を図る。 ・家庭科の授業や食育の講演を通し、食の大切さを深く考えさせる。 ・学校給食週間に生徒会活動で食の大切さを伝える取組を行う。	B	○学校評価(教職員)のアンケートで、スポーツの意義や大切さを指導していると答えた教師は85%。 ○今年度の全校での部活動加入率は90%であり、新入生の加入率も90%であった。 ○体力テストの結果から、体育の授業で行う準備運動等の内容を再検討する予定。			体育主任 保健主事
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減 ○教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間上限を遵守する。 ○ひと月当たりの時間外在校時間が45時間を超える割合を10%以下にする。	・一部活デー、定時退勤日の設定(毎週月曜日)と遵守。 ・個人の業務内容を見直し精選する自己マネジメント力の向上。 ・業務データの一元化による校務の効率化。	B	○アンケートの結果、ノー部活デーはほぼ100%遵守されている。定時退勤日については4段階評価中平均2.7と目標数値3を下回った。 ○業務内容の見直しを意識した教職員の自己マネジメントも2.6と目標数値3を下回った。			管理職

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	
----------------	--